

【参考】京都国際社会福祉センター HPより引用

発達障害の要支援度評価尺度(MSPA:エムスパ)

著者 船曳 康子(京都大学大学院 人間・環境学研究科)

発行所 京都国際社会福祉センター

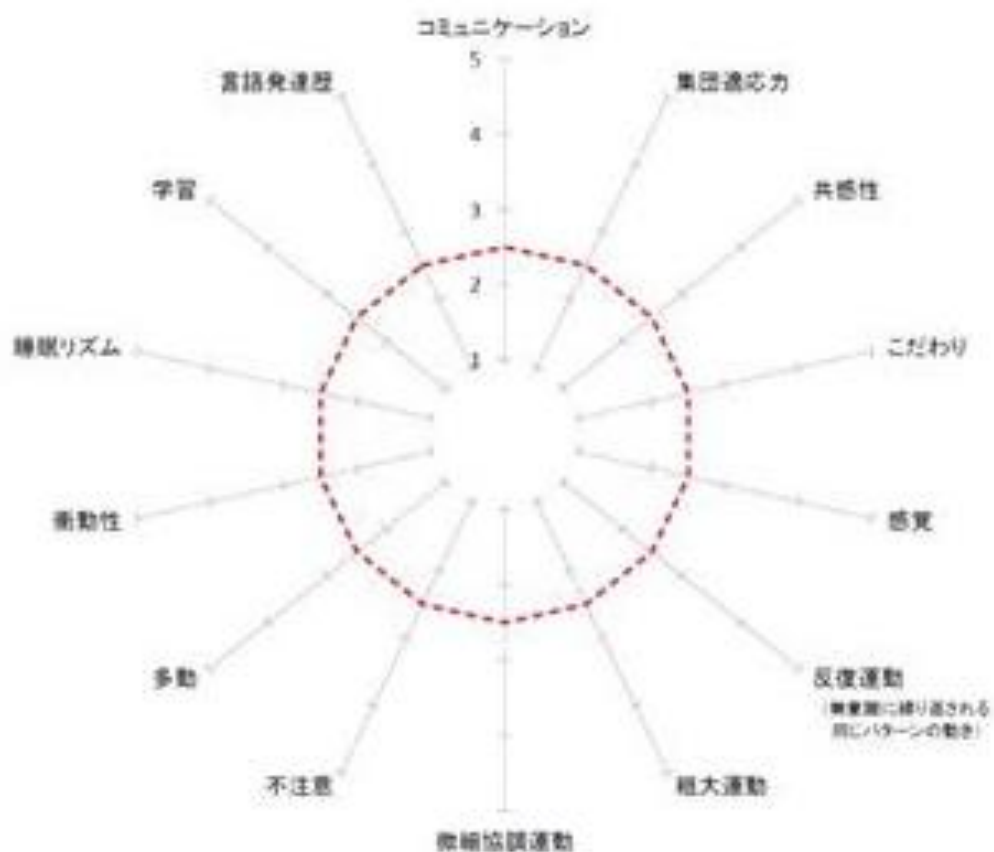
《MSPA(Multi-dimensional Scale for PDD and ADHD)とは》

京都大学大学院の船曳康子教授を中心に開発された、発達障害の特性の程度と要支援度の評価尺度。

MSPA では、発達障害の特性について、「コミュニケーション」「集団適応力」「共感性」「こだわり」「感覚」「反復運動」「粗大運動」「微細協調運動」「不注意」「多動性」「衝動性」「睡眠リズム」「学習」「言語発達歴」の項目から多面的に評価する。各項目は当事者や保護者からの生活歴の聴取を通して評価し、各項目での結果を特性チャートにまとめることで、発達障害の特性や支援が必要なポイントを視覚的にとらえられるようになっている。

また、2016年4月1日より保険収載(D285 3)となり、今後医療、療育への活用が期待されている。

図. MSPA のレーダーチャート



【参考】

平成29年度 北九州市医師会主催 Web講演会「MSPAの概説」より（北九州市共催）
（平成29年9月30日（土） 京都大学大学院 船曳 康子教授）

- ・ MSPAは、生活場面で当事者がどのように困っているかを包括的に評価し、生活の場で活用されることを目指しており、偏見を防ぐ観点から障害や診断名は使わずに特性を示している。
- ・ 当事者ばかりでなく家族や教師といった異なる立場の多様な支援者が、特性の個人差を視覚的に理解できるよう、こだわり、睡眠リズム、反復行動といった要素を5段階のレーダーチャートで示している。
- ・ 多職種の共通言語として活用することにより、支援の迅速化、ライフステージを通じた支援の強化、更には二次障害の予防にもつながるものと考えている。